

# 【ねがいましては】

平成31年4月25日

KYOWA SCHOOL

第342号

「忠恕」(ちゅうじょ)

他人に対する思いやりが深いこと。

実は私自身、この語彙を知りませんでした。しっかりと「心」が両方の字にあります。ちなみに心の上にある「如」は、「ごとし」まさにこころそのものという意味です。「忠」は「まごころをこめる」という意味があるそうです。

思いやりや優しさは、ほとんどの方が知っている語彙です。子どもたちの間ではどのくらい日常に浸透しているのでしょうか。

2月、都内某小学校へそろばん派遣講師としてお邪魔したときのことです。4日間、4時間と結構な時間をいただいたの授業でした。その中のあるクラスの先生は50歳を過ぎてから通信教育で教員免許を取られたとのこと。それまでは防衛省に勤められていたそうです。すごい変身ぶりです。なんでも防衛省では転勤が多いそうで、家族のためにも定住したいという願いのもと、頑張ったそうです。そして教員の世界へ・・・。

そのような経歴の方であれば、さぞクラスのまとめ方もバッチリ・・・といっているような感じがしません。ある日の私の授業が終わって教室を出ようとした瞬間、教室の後ろの方でひとりの男の子が倒れています。おなかを押さえて苦しんでいます。そのまわりのは数人の男の子。3年生のクラスでした。

一瞬ですが、何が起こったのだろうとわからなかったのですが、どうやらひとりの子が、その倒れている子を蹴ったようでした。そして、先生が駆け寄ります。「後遺症が残ったりでもしたらどうするの。治療代を君たちで払うことができますか。」などと話しています。その瞬間を見ながら、私はまたポカンと暫しの時間・・・。なぜか・・・蹴られた男の子のもとへすかさず駆け寄ることが先なのではないのかな。先生が被害をかけた男の子たちに説教をしている間も、その子はうずくまったままです。私のところの中には「あれっ」と、つぶやきが現れます。

ひとつの洗脳が私の中に広がります。『このような順序がこのクラスの常識なのか』・・・そしてわけのわからないまま、教室を出ました。

一言でいえば『暴力』です。殴ったことになります。クラスの中にいたその他の子たちも知らん顔をしたまま教室からいなくなりました。これは日常茶飯事の光景なのか・・・？ 訳のわからない、まとまりのない気持ちのまま学校をあとにしました。複雑な気持ちのまま車を運転します。何なんだ・・・？

私の日常(授業)の中で、常に訴え続けているものが甦ってきます。『何が良くて、何が悪いかは自分が決めること。その決めたことに正直に行動できる人が真の強い人』

たった今の自分が、自分のやっていることが良いことなのか、悪いことなのか、それを判断するトレーニングを重ねる・・・。それがここでの基本形。とくに中・高生たちのクラスは、皆が安心しきって机に向かいます。誰からも誹謗中傷を浴びない世界、それが全員にわかっている状態。こんなに安心できる場所があったんだという表情です。どんなにわからなくても、どんなに易しいところをやっている、誰も何も言ってはこないし、そんな目つきもない。それぞれが思い思いのところに取り組み、それぞれのスピードで、個性溢れる取り組み方をします。それがあたりまえ。

新学期が始まり、新しい顔が少しずつふえてきます。その子たちの多くが、周りの目を気にしながら、そわそわした目線を漂わせながら向かいます。安心しきっている子たちの表情が日常なので、そのコントラストがとてもよくわかります。

きっと、私が訪ねた学校の子たちは、日常が不安なのかもしれません。不安を安心に変える必需品が『強い』です。誰からもいじめられることのない強い自分を常に漂わすことで、自分を守ることができる。その表れがはじめのひとつのような気がいたします。私の理想とする『強い』とは真逆になります。

男の子はとくに競争しがります。勝った負けたをすぐに意識いたします。勝ち強い、負け弱い、だから弱いやつはいじめられて当然だ・・・。それを打ち消そうとする心の動きが・・・。

他人に対する思いやりを深めること、このトレーニングが、まず集団生活の場での始まりでなければならぬと思います。さあ初めての学校生活が始まった、テストがあるぞ、最初から100点が取れるようにしっかりと準備しなきゃ、就学以前から教育熱心なお母様、お父様の取り組みがあったりします。負けないでねという願いのものと就学以前の勉強なのか、学びつて結構楽しい世界だよ、ふんそうなんだっていう気持ちの時が何ともいえないいい気持ちになっていることわかったもんね。できなかったことを30分、1時間かかってやっとできたときのあの何ともいえない『ヤッター感』、それが学びの醍醐味ですよ。この気持ちは高学年の方々。テストで100点が取れたというときよりも、わかった一、できた一の時のほうがはるかに強いうれしさがありますよね。

わからないと悩んでいる子に、懸命に自分のことばを駆使し、伝える。やっとの事でわかってくれたときの、あの目の前の子の嬉しそうな表情・・・。そっちの方がもっと嬉しいでしょ！

そうなんです。あなたたちにはすでに宿っていましたね『忠恕』・・・ありがとう。